様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１２７０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２２４１

研究課題名（和文）デジタルアーカイブ構築による人文書院戦前期資料の多面的文化史研究

研究課題名（英文）Study of the multifaceted cultural history for the document before World War II of Zinbun-Shoin by the construction of the digital archive

研究代表者
一柳　廣孝（Ichiyanagi, Hirotaka）

横浜国立大学・教育学部・教授

研究者番号：４０２４７７３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：日本心霊学会は、1910年前後から20年前後まで活動した、当時最大規模の霊術団体のひとつである。その日本心霊学会の機関誌である「日本心霊」のほぼ揃いが、同学会の後進にあたる京都人文書院で奇跡的に発見された。近代日本の精神史を探るうえでの一級資料である「日本心霊」について、本プロジェクトは全資料の裏打ち処理、脱酸素処理を施してPDF化を進めるとともに、二度にわたるワークショップで近代科学史、仏教史、近代出版文化史、日本近代文学などの多様な観点から分析を進め、それぞれの研究成果については書籍、論文、学会発表の形で公表した。

研究成果の概要（英文）：The Japanese Spiritual Society is one of Reizyutu groups the largest in those days who was active from around 1910 to around 20 years. "the Japanese Spirit" who is the bulletin of The Japanese Spiritual Society a pair was almost discovered miraculously in the Kyoto Jinbun-Syoin which reversed of the society."The Japanese Spirit" is a first class document on investigating modern Japanese history of ideas.
For this project, I restored this intense document of the deterioration.
Furthermore, PDF stimulated becoming it.In addition, I pushed forward analysis in 2 degrees workshop from various points of view such as history of modern science, history of Buddhism, modern publication cultural history, the Japanese modern literature.In addition, I announced it in a book, an article, the form of the presentation at the meeting about each result of research.

研究分野：日本文学

キーワード：日本心霊　日本心霊学会　霊術　人文書院　科学史　仏教史　出版文化史　日本近代文学

１．研究開始当初の背景
2012 年末、京都人文書院の倉庫から、同社の前身にあたる日本心霊学会の機関紙『日本心霊』（大正 9 年～昭和 14 年）の、ほぼ完全な揃い 1500 点、さらに機関誌出版用の写真乾板、執筆者の書簡、出納書、会員名簿など、大正期～昭和初期に活躍した霊術団体に関する第 1 級の出版資料が発見された。本研究は、この貴重な資料群の活用方法の模索から始まる。

２．研究の目的
（１）『日本心霊』をはじめとする日本心霊学会関連資料は、明治期に始まる催眠術ブームとそこから派生した催眠術教授団体、そして大正期に一気に拡大した霊術団体の思想動向や活動状況を知る上で、今後見落とす事のできない価値を有するものであり、宗教学、日本思想史、日本文化史、出版文化史、日本文学史など、複数の学問ジャンルで検討すべき課題を提供する可能性を秘める。大正期を彩る多種多様の霊術団体とその思想についての研究としては、井村宏次『霊術家の饗宴』（1984、心交社）を先駆とし、同じく井村の『新・霊術家の饗宴』（1996、心交社）、『霊術家の黄金時代』（2014、ビイングネットプレス）、または一柳『催眠術の日本近代』（1997、青弓社）などがあり、また吉永が編者を務めた『日本人の心・身・霊　―　近代民間精神療法叢書』全 15 巻（クレス出版）や『催眠術の黎明　―　近代日本臨床心理の誕生』全 7 巻（クレス出版）といった、明治大正期の貴重な関連書籍に光を当てた仕事はあるものの、個別の霊術団体の研究はほとんど進んでいない。その理由は、霊術団体の日常的な動態を示す定期刊行物やパンフレットといった資料が、ほとんど残っていないことによる。しかし今回の新資料は、停滞した研究状況を動かすに値するものである。これだけまとまった資料群が発見された霊術団体は、未だかつて存在しない。よって本研究は何よりも、この資料群の保存と整理を第一の目的とする。なかでも『日本心霊』は劣化が激しく、読解が不可能な状況にある。そのため業者に依頼し、酸性化対策を施したうえで和紙での裏打ちを行い、資料の保存に努める。そのうえで、資料の整理とデジタル化を行い、この資料群のアーカイブを構築することを目指す。

（２）日本心霊学会関連資料の整理と読解に関する作業を進めることで、京都を本拠地として多様な活動を展開した日本心霊学会という霊術＝精神療法団体の栄枯盛衰のプロセスをたどる。そのさいには、複数のアプローチを意識する必要がある。例えば、京都という地の利を生かして日本心霊学会は寺院を中心に勢力を拡大したが、そのさいに諸宗派と軋轢は生じなかったのか、当時の仏教をめぐる文脈のなかで、日本心霊学会はどのように認知されていたのか、といった仏教文化史からの視点、または明治から続く心身の修養という概念と日本心霊学会が展開した精神治療との関係といった思想史的な視点、千里眼事件でアカデミズムから離脱しつつあった福来が、どのように日本心霊学会と出会い、その関係を深めていったのか、という科学史的な視点などである。

（３）日本心霊学会は大正期に出版部を設けた。同出版部の刊行物では、白隠禅師『夜船閑話』がベストセラーになり、また同出版部から刊行された書物の著者には京都帝国大学で精神医学講座の初代教授を務めた今村新吉、千里眼事件の主役のひとりだった前東京帝国大学助教授の福来友吉、日本の探偵小説の基盤を作った小酒井不木など、注目すべき人物を見出すことができる。昭和に至って同出版部は人文書院に名称を改め、日本文学関連の書物を数多く出版した。なかには太宰治『晩年』もある。以上の点からも、この団体が出版文化に残した功績は大きい。京都における出版文化史という観点からも、日本心霊学会についてアプローチを試みる必要がある。

３．研究の方法
（１）予算の執行と合わせながら、『日本心霊』の修復作業を進める。併せて日本心霊学会関連の写真乾板、執筆者の書簡、出納書、会員名簿などの資料整理、目録作成作業を進める。

（２）同時に資料分析を進め、個々の課題について考察を深める。一柳は主に福来友吉の動向と彼の思想の日本心霊学会への波及状況について、吉永は日本仏教史の文脈における日本心霊学会の意味について、菊地は京都の出版文化史における日本心霊学会の果たした役割について、栗田は日本精神史の文脈における日本心霊学会の意味について、石原は戦前の人文書院と日本文学の結びつきについて研究を進め、年に 2 回の研究会でそれぞれの研究成果を披露し、有機的な研究の発展に繋げる。

（３）最終的には『日本心霊』のデジタル化を完了し、日本心霊学会に関する基礎資料アーカイブを構築する。

４．研究成果

（１）日本心霊学会関連の写真乾板、執筆者の書簡、出納書、会員名簿などの資料整理を終了した。また『日本心霊』の裏打ち処理、脱酸素処理をほぼ終了し、PDF 化への移行を可能にした。予算の関係上、PDF 化は全体の 50%程度にとどまったものの、『日本心霊』、および日本心霊学会の全体像を把握するうえで、きわめて有意義な情報を得ることがで

きた。

（２）（１）の成果を踏まえ、個々の研究参加者による複数の貴重な研究成果を公にすることができた。その具体的な内容は、以下のとおりである。

A　一柳は霊術の基盤をなしている明治期の非合理社会について、明治に造営された公立墓地の様相とそこから生み出された幻想世界の文学テクストへの反映状況の分析や、明治 30 年代半ばから新聞メディアで大量に取り上げられた怪談の連載記事の分析を通して考察を深め、さらに千里眼事件における福来友吉の認識の変容を丹念に追うとともに、日本心霊学会を主宰した渡辺藤交、大正期最大の霊術団体のひとつである太霊道を主導した田中守平の動きを明らかにし、あわせて、福来が日本心霊学会の理論的指導者となるプロセスについて、『日本心霊』における彼の執筆状況を調査することで考察を進めた。

B　吉永進一は近代日本の仏教史の観点から考察を進め、特に渡辺藤交が知恩院中学林の出身であることに注目し、京都西本願寺が創刊した「反省会雑誌」の分析を通して、精神療法家としても活動した渡辺がスローガンとした「霊肉救済」「霊俗融合」の内実を明らかにした。

C　菊地暁は、日本心霊学会出版部で編集長の職にあり、白隠禅師『夜船閑話』などをロングセラーに導いた野村瑞城について調査を進め、彼に関するいくつかの資料の存在を明らかにするとともに、京都出版界における日本心霊学会出版部の位置付けについて考察を深めた。

D　栗田英彦は、神智学の日本での展開と日本心霊学会との関連について考察するとともに、明治 30 年代から活性化する「修養」という概念の拡がりとその実践の様相に注目し、岡田式静坐法とキリスト教社会主義者だった木下尚江との繋がりに関する分析、数ある霊術のなかでも特に腹式呼吸法を重視した藤田式息心調和法の分析、大西祝や姉崎正治らが主導した丁酉倫理会における「修養」の意味の分析などを通じて、明治期の心身修養をめぐる議論が霊術の世界認識に接続し、日本心霊学会で受容されていくプロセスを明らかにした。

E　石原深予は、近現代日本文学における「異界」概念成立のプロセスとの関連を探るとともに、日本心霊学会出版部から移行した戦前の人文書院において中核を担った編集者、清水正光の存在に注目し、彼の軌跡を追った。その結果、清水の生地、彼が中学時代、川端康成の同級生だったこと、歌壇を中心に広範な人的ネットワークを構築し、多くの文学関連の出版に携わったことを明らかにした。

（３）現時点での総括として、研究代表者である一柳が JNSE 第 2 回ワークショップ「雑誌メディアとオカルティズム」（於千葉大学国際教養センター）において「『日本心霊』とその時代」のタイトルで、当科研費における研究のプロセスと研究成果について発表した。また 2016 年の京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」合同ワークショップ「日本心霊学会から人文書院へ新資料調査の中間報告」では、本プロジェクトの中間報告として、吉永進一「霊肉救済、霊俗融合　―　精神療法化、渡辺藤交」、一柳廣孝「福来友吉と日本心霊学会」、栗田英彦「日本心霊学会と伝統宗教　―　雑誌『日本心霊』の調査から」、菊地暁「野村瑞城について知っている 2, 3 の事柄」、石原深予「編集者清水正光と戦前期人文書院における文学関係出版」の 5 本の発表に加え、人文書院の佐藤良憲氏をお招きして、「人文書院 100 年の歩み」というタイトルでお話いただいた。佐藤氏の講演では、人文書院の命名者が、福来とともに千里眼事件に関わった京都帝国大学の今村新吉であること、藤交の息子にあたる人文書院の二代目社長が初代の非合理的な世界観に反発し、京都大学の人文系研究者との親交を深めて、スタンダール、サルトル、ゲーテなどの西欧文学、哲学の出版に傾注したことなどが話題となり、あらためて人文書院の通時的な検討が必要であることが確認された。

なお当研究は、今年度からスタートした科研のプロジェクト「日本新宗教史像の再構築」に引き継がれ、残っている『日本心霊』の PDF 化を進めるとともに、『日本心霊』の、より詳細で包括的な分析を進める予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　13　件）

①吉永進一、Hansei Zasshi と大拙、松ヶ丘文庫研究年報、査読無、31 号、2017、pp.65―77

②吉永進一、大拙研究の新展開、アンジャリ、査読無、34 号、2017、pp.26―39

③吉永進一、岡田正彦、近代仏教とメディア、中外日報、査読無、120 年記念号、2017、pp.22―23

④栗田英彦、南山宗教文化研究所所蔵静坐社資料　解説と目録、南山宗教文化研究所研究所報、査読無、27 号、2017、pp.24―61

⑤栗田英彦、革命と修養　木下尚江はなぜ静坐をしたのか？、日本思想史学、査読有、49 号、2017、pp.132―150

⑥Kurita Hidehiko, The Nortion of Shuyo and Conceptyualizing the Future of Religion at the Turn of the Twentieth Century, Religious Studies in Japan,査読無、2017、pp.65―90

⑦石原深予、孤独の受容、救済の物語　―　山田太一「異人たちとの夏」論、論潮、査読無、10 号、2017、pp.1―20

⑧一柳廣孝、墓地からの風景、文学、査読無、17 巻 6 号、2017、pp.143―155

⑨一柳廣孝、青葉がくれに花を摘む　―　泉鏡花「艶書」と怪異、国語と国文学、査読無、94 巻 2 号、2017、pp.2―13

⑩栗田英彦、腹式呼吸の近代　―　藤田式息心調和法を事例として、印度学宗教学会論集、査読有、43 号、2016、pp.1―24

⑪一柳廣孝、『魔睡』が暴露したもの、ドクトル・リンタロウ　医学者としての森鷗外、査読無、2015、pp.50―51

⑫一柳廣孝、変わる怪談、大法輪、査読無、82 巻 7 号、2015、pp.69―70

⑬栗田英彦、明治三〇年代における「修養」概念と将来の宗教の構想、宗教研究、査読有、384 号、2015、pp.471―494

〔学会発表〕（計　20　件）

①一柳廣孝、『日本心霊』とその時代、JNASE 第 2 回ワークショップ「雑誌メディアとオカルティズム」（於千葉大学）、2018

②栗田英彦、「日本神話」派の思想と人脈　―　佐藤通次を中心に、印度学宗教学会第 54 回学術大会（於東北大学）、2017

③栗田英彦、日本型政教分離と修養　―　丁酉倫理会を中心に、日本宗教学会第 76 回学術大会（於東京大学）、2017

④Kurita Hidehiko, Political Movements and the Birth of the Japanese New Religious Movement ”Seicho-no-ie”, Changing Religious Landscape in Contemporary East Asia（Hong Kong Baptist University）、2017

⑤Kurita Hidehiko, Taniguchi Masaharu’s idea of Political Economy: From Spiritual Therapy to Social Reform, The15th EAJS International Conference（the Universidate NOVA）、2017

⑥栗田英彦、キリスト教・社会主義・オカルト　―　関口野薔薇の「神道神学」の背景、神智学研究会ワークショップ「アジア・仏教・神智学」（於龍谷大学）、2017

⑦吉永進一、霊肉救済、霊俗融合　―　精神療法家、渡辺藤交、京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」合同ワークショップ（於京都大学人文科学研究所）、2016

⑧一柳廣孝、福来友吉と日本心霊学会、京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」合同ワークショップ（於京都大学人文科学研究所）、2016

⑨栗田英彦、日本心霊学会と伝統宗教　―　雑誌『日本心霊』の調査から、京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」合同ワークショップ（於京都大学人文科学研究所）、2016

⑩菊地暁、野村瑞城について知っている 2，3 の事柄、京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」合同ワークショップ（於京都大学人文科学研究所）、2016

⑪石原深予、編集者清水正光と戦前期人文書院における文学関係出版、京都大学人文科学研究所共同研究「日本宗教史像の再構築」合同ワークショップ（於京都大学人文科学研究所）、2016

⑫栗田英彦、キリスト教社会主義と呼吸の「儀礼」、印度学宗教学会第 52 回学術大会（於郡山女子大学）、2016

⑬栗田英彦、キリスト教社会主義から神道ヨガへ　―　関口野薔薇における「日本」と「宗教」、「宗教と社会」学会第 24 回学術大会（於上越教育大学）、2016

⑭栗田英彦、昭和初期「成長の家」における出版戦略、日本宗教学会第 75 回学術大会（於早稲田大学）、2016

⑮栗田英彦、政治実践としての心身修養　―　木下尚江を中心として、日本思想史学会 2016 年度大会（於関西大学）、2016

⑯一柳廣孝、怪談を連載する　―　明治後期の新聞記事を中心に、日本口承文芸学会第 69 回研究例会（於國學院大學）、2015

⑰吉永進一、Hypnotism enchanted: Kuwabara Toshiro and the beginning of Japanese “metaphysical” healing in Meiji Japan, Symposium “The Invention of Hypnotism and Yoga ;America, Japan, Russia,and Beyond”（於カリフォルニア大学

サンタバーバラ校、招待講演)、2015

⑱吉永進一、近代日本における修養と身体文化、ミニシンポジウム「アジアの宗教における修養の諸相」(於国際基督教大学、招待講演)、2015

⑲ 石原深予、Recently Discovered Documents of Nippon Shinrei Gakkai,a Japanese Mind Cure Movement, Workshop "Modernization, and Spiritual, Mental and Physical Practices: From Yoga to Reiki"(於京都大学人文科学研究所)、2015

⑳栗田英彦、キリスト教社会主義と心身修養、日本思想史学会 2015 年度大会(於早稲田大学)、2015

〔図書〕(計 7 件)
①吉永進一 他、法蔵館、『反省会雑誌』とその周辺、2018、16

②一柳廣孝 他、勁草書房、明治・大正期の科学思想史、2017、92

③一柳廣孝 他、六花出版、＜変態＞二十面相 もうひとつの日本精神史、2016、12

④一柳廣孝 他、青弓社、怪異の時空１ 怪異を歩く、2016、23

⑤石原深予 他、法蔵館、近代仏教スタディーズ 仏教からみたもうひとつの近代、2016、2

⑥栗田英彦 他、法蔵館、近代仏教スタディーズ 仏教からみたもうひとつの近代、2016、4

⑦一柳廣孝 他、勉誠出版、アジア遊学 怪異を媒介するもの、2015、4

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
一柳 廣孝(ICHIYANAGI, Hirotaka)
横浜国立大学・教育学部・教授
研究者番号：４０２４７７３９

(2)研究分担者
吉永 進一(YOSHINAGA, Shinichi)
舞鶴工業高等専門学校・その他部局等・教授
研究者番号：９０２７１６００

菊地 暁(KIKUCHI, Akira)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：８０３１４２７７

栗田英彦(KURITA, Hidehiko)
南山大学・宗教文化研究所・研究員
研究者番号：１０７１２０２８

石原 深予(ISHIHARA, Miyo)
京都府立大学・文学部・研究員
研究者番号：１０７４８３２０